

切磋琢磨Ⅲ

校長室だより

R2. 4.13 第2号

コロナ脅威の中で、今考えること... (臨時休校延長です)

居住地確認に変更します

4月8日の出校日に「家庭訪問」のお知らせをご家庭に配付しましたが、豊橋市にも感染者が出たことを受けて、また「居住地確認」に変更させていただくことにしました。理由は、接触を避けることで、感染リスクを回避するためです。このコロナ感染の怖いところは、感染しても無症状である期間が長いということです。すでに、感染経路がわからない患者が多く出ており、誰が保菌者かもわかりません。

訪問のために、せっかく時間を割いてご準備いただいたご家庭には、申し訳ありませんが、このような状況ですので、ご理解とご協力をお願いします。なお、この件の詳細につきましては、別の文書にてご連絡します。

なぜ、宿題（プリント）がないの？

小学校に通うお子さんをもつお母さんとのおしゃべりでのこと。「うちの学校は、宿題が出てないので、勉強せんで大丈夫かしら？〇〇小学校では、いっぱいプリントの宿題が出ているって言ってたけど…」

「宿題を出す学校がいい学校だと思う？」って聞き返しましたら、「そりゃ、あった方が勉強しりんって言えるからいいじゃない？」とのご返事でした。

「まだまだ、新しい教育観を共有するには時間がかかるなぁ」というのが率直な感想でした。

いまこそ、主体的・対話的で深い学びの理念を

本年度から、新学習指導要領の完全実施となります。その理念は「主体的・対話的で深い学び」です。その理念を受け、本校では昨年度より「自己肯定感を高める」を合言葉に、学校教育活動を推進してきました。そして、本年度はもう一段ステップアップします。それは、「自立を促す指導」を通して、自分で解決する「自立心」の芽を育てることです。

たしかに「知識や技能」の定着のために、プリント等で繰り返し学習することは必要です。しかし、学習者であるお子さんが、学習に対して、前向きに取り組むという姿勢をもつことが一番大切だと思います。プリントを出す理由に対して、子どもが納得して取り組むことなしでは、ただ「やらされている」感は否めません。お子さんが必要だと考えれば、ドリルを自ら進めることは、十分に有効な学習と言えます。

二川小学校の目ざす教育

本校が求める子どもの姿は、何度もお伝えをしていますが、その中の「考える子」を「自ら考え、判断する子」と捉えています。今回のコロナショックは、今の時代がいかに不確実で不透明であるかを物語っています。これからは、このような混沌とした時代に入っていくのではないかと不安の声もあります。

保護者の皆さんや我々が生きてきた時代とは大きく変わっているこの時代。だからこそ、自分で問題を見つけ解決する力をつけるための教育が必要になっています。与えられた課題をこなすだけの人では、これからの時代を生き抜いていけないと思うのです。

そこで、今回はあえてプリント類などを配付しませんでした。意図は、「子どもが、自らやるべき課題を見つける」ことを考えてほしいからです。ここには、ご家庭の協力も必要です。お子さんが、自分にとって何をすることが大切なのかを考える時間、そして親子でその課題を共有することで、子どもたちの背中を押すこともできます。親子の考えのズレが生まれるでしょうが、大人が先回りして、「これをやりなさい」では主体的な学びの姿勢は生まれません。

「主体的に学習に向かう態度」の育成

これからの評価は「知識技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に向かう態度」の3つです。いまこそ、この「学習に向かう態度」を身につける絶好の機会です。

新しい教科書は、その意欲をかきたてるための絶好の教材です。中をパラパラと見るだけでも、わくわくするでしょう。

一年間 どんな勉強をするのかな？これ おもしろそう！この歌 歌ってみたい。この工作 家でやろう！

こんなお子さんの声が聞こえてきそうです。これこそが、主体的に学習に向かう態度です。新鮮さは大いに魅力的！

ただ、このような関心をもてないお子さんもいると思います。そのために、それぞれの学年の先生には、お子さんが興味関心をもてるような学習方法や教材の提示をお願いしました。その中には、いまだきの「学びの応援サイト」もあります。

お子さんと話をしながら、どんなことに興味関心があるか、今何を勉強したいのか、したらよいかを、じっくりと話してみてください。思った以上に、お子さんの自立心の芽生えを感じると思います。ピンチはチャンス！です。